

薩摩川内市地域おこし協力隊員受入候補団体等事業提案書

団体等名 甕島観光まちづくり研究会

<p>1. 活動地域</p>	<p>(隊員が活動する範囲などを記載してください。また、連携する団体等について記載してください)</p> <p>活動範囲 : 里地区を拠点とした甕島4町内の範囲 連携団体 : 甕島地域雇用移定住対策協議会、甕島ツーリズム推進協議会、薩摩川内市商工会里支部、島守株式会社、東シナ海の小さな島ブランド株式会社 連携団体 : 株式会社ことろど (有料職業紹介認可保有)</p>
<p>2. 地域の概要</p>	<p>①人口、高齢化率</p> <p>活動区域 人口 <u>3,750人</u> 高齢化率 <u>55.2%</u> ※令和5年4月住民基本台帳による ※年齢分類別地域町別一覧表による</p> <p>②自然条件や歴史・文化、社会・経済的条件など特徴があるものを記載してください。</p> <p>鹿児島県薩摩半島から西へ沖合約30キロの東シナ海に浮かぶ甕島列島。川内港ターミナルから、高速船でおおよそ50分、串木野新港からフェリーで約75分の船旅です。上甕島・中甕島・下甕島と南北に連なる島々は、海域を含む島の半分以上が国定公園にも指定されており、長目の浜や鹿島断崖、瀬尾観音三滝、ナポレオン岩など、8,000万年前の白亜紀の地層や数々の名所も数多く存在する風光明媚なエリアです。 そのほか、ユネスコ無形文化遺産に指定された来訪神トシドンのほか、武家屋敷通りを有する里麓・手打麓が日本遺産に登録。玉石垣のある街並みも国交省「島の宝100景」に選定されるなど、平屋の美しい集落群が特徴的です。一方で、島には、高校がなく中学卒業と同時に15歳で島を離れることを余儀なくされており、少子・高齢化は全国の離島でもトップクラスに進んでいる。</p> <p>③地域の特産品などがあれば記載してください。</p> <p>主な産業は、水産業。日本一の水揚げ量を誇るきびなごをはじめ、タカエビ、カンパチ、黒マグロや岩牡蠣の養殖なども行っている。その他、赤土バレイショや玉ねぎを出荷するほか、パッションフルーツや島アロエの生産量も年々増加している。近年では、鹿の子百合の球根栽培にも取り組むグループが新たに発足しているなど地域の特産品のポテンシャルは高い。</p>
<p>3. 現状と課題</p>	<p>令和4年4月1日の住民基本台帳による人口統計では、甕島列島4町の総人口3,842人だった人口は、翌年には3,750人(令和5年4月1日現在)となり、たった1年で92名の減少となった。列島全体の高齢化は、55.2%で全国平均28.9%を大きく上回っている。いくつかの要因が挙げられるが、島には高校がないことから子どもたちは、中学卒業後に</p>

故郷を離れることを余儀なくされており、少子高齢化に拍車をかけているような地域構造となっている。

また、UI ターン者の受け入れ実績も少なく、その数を増やしていくことは、過疎化に歯止めが効かない島の喫緊の課題である。すでに甑島の産業を支える担い手がおらず、慢性的な人材不足が島内各地で発生している。これは、第一次産業に関わらず、全ての職種で同様の課題でもある。さらには、担い手が不足していることで、事業の継続のみならず、集落コミュニティの維持や存続にも困難をきたしている。限界集落を複数有している。地域活性化どころか、伝統芸能や地域固有の祭りごとなど地域文化の継承も容易ではなく、近い将来集落そのものが、姿を消していくだろう。

そうした現状の中で同時に増えている課題が、集落の空き家問題である。島内の空き家件数は、年々増加しており4軒に1軒以上が空き家となっている地域もある。昨年度、甑島地域雇用移定住対策協議会には、10組以上の移住希望者（住宅問い合わせ含む）があったにもかかわらず、そのほとんどが移住には至っていない。その最大の理由が、「家がない」見つからないというものと、「窓口が分からない」といった理由である。上記の通り、空き家も移住希望者も増えているにもかかわらず、すぐに住める家がないことで、断念されている現状である。

また、島内には、「保守・管理」を主とする不動産管理会社がなく、まだ活用できる状態の家も、各オーナー側のさまざまな事情から解体されるケースも相次いでいる。過疎地において一度更地になった土地には、新たに住宅等が再建されることは、ほとんどありません。また、人口減少時代において、公営住宅等の新設も容易ではないと考えられ、住宅問題は、ますます深刻化していくものとする。現在の空き家があれば、その先に改修や利活用することが可能であるが、現状は解体費用も年々高騰しており、放置されているケースが山積している。

そうした状況を変えていこうと、いわゆる不動産屋のない甑島において、上甑島里町を本社所在地として甑島列島4町を活動エリアとする「島守株式会社」が創業されている（令和3年11月1日）。不動産仲介による手数料等の発生する一般的な不動産業者ではなく、主に、空き家の保守管理、移住定住の促進のための窓口として運営している。また、今後の地域社会における行政と民間による共生協働事業を促進させていく橋渡し役となることを目指しており、当会では、島守株式会社並びに甑島地域雇用移定住対策協議会との連携を強化するとともに、民間目線での稼ぐ地域づくりを大切にしながらも、社会課題に対する公益性の高い事業を創出していくことが求められると考えている。

現在、島守株式会社では、甑島列島内において、里町4件、上甑町中甑1件、上甑町江石1件、上甑町平良1件、鹿島町2件、下甑町手打3件、下甑町瀬々野浦1件、合計13軒（調整中案件含む）の保守・管理を広域で行っている。

今後もますます増加していく空き家問題は、将来の空き地問題であり、空き地問題は、集落コミュニティの希薄化、税収の低下など複合的な地域課題と結びついている。ひいては、甑島に暮らす理由を失っていくことで、さらなる過疎化に拍車をかけ、廃集落や無人島化に繋がっていると断言しても殊更過言ではない。

<p>4. 具体的な事業内容</p>	<p>(隊員に支援してほしい地域協力活動について記載)</p> <p>島内の空き家全般について、保守管理・運用等の相談窓口としてのプランニング業務、WEB サイトの運営業務、移住定住の相談業務をはじめとする UI ターン促進のためのお試しステイ等の各種イベントや人材マッチング等の企画運営に関する伴走型支援。その他、エリアマネジメントの視点を持ち、空き家や空き地等に放置された家財道具や粗大ゴミの整理整頓、対象敷地における草刈り、伐採作業をはじめとする作業だけでなく、軽微なりノベーションにも取り組みながら、空き家の管理から運用までを一貫して企画立案、再生することで、集落再生や再構築を目指していくもの。</p>
<p>5. 隊員受け入れの必要性</p>	<p>(隊員の配置により薩摩川内市や地域の活性化にどのような貢献や役割を目指すのか)</p> <p>甕島には、宅建業者はあるものの所謂不動産屋として仲介や斡旋を定期的に行っている「窓口」を担っている業者がない。また、不動産市場としても資産価値が低いといった土地柄、通常の不動産業のビジネススキームでは、事業が成立しないために永きに渡って、不動産を主とした業者が不在のままであった。そうした背景からも、不動産の流動性は非常に低いままで、空き家があるものの、すぐに住める、あるいは、活用できるといったような空き家・空きテナントがない問題が急増しており、甕島地域の過疎化を加速させている要因の一つとなっている。</p> <p>そのような中で、島嶼地域における不動産の保守管理に取り組んでいく協力隊員を顔の見える窓口として機能していくことは、集落の未来への可能性を残し、複合的な経済効果をもたらすと考えている。いかなる地域おこしにとっても「場づくり」と「場のこし」は、重要である。</p>
<p>6. 隊員の役割や活動内容、求める人物像等</p>	<p>(事業の推進体制や任用時の職位、能力・経験・年齢層等)</p> <p>◎隊員の役割や活動内容</p> <p>ビジネスを始めるときや移住や定住を考えるときに、その地域に相談できる「窓口」の選択肢が少ない場合や、そもそも情報発信がされていない地域は、相対的に選ばれない。隊員には、島守株式会社をはじめ、甕島地域雇用移住対策協議会とも連携し、相談窓口と情報発信の役割を担ってもらう。</p> <p>さらには、空き家の利活用や UI ターン促進のプロジェクトマネージャー (PM) として、お試しステイ等の各種イベントや人材マッチング等の企画運営に関する伴走型の支援を行なうものとする。その他、空き家や空き地等に放置された家財道具や粗大ゴミの整理整頓、草刈り、伐採作業をはじめとするリノベーション関連事業にも取り組むものとする。人と話をするのが好き、体を動かすのが好き、写真やデザインなどのクリエイティブなものが好きな人物だと、地域活性化に活かせると思う。</p> <p>尚、年齢、性別、経験、資格の有無は問わないものとするが、関連する企業や地域団体のスタッフの多くが、20代から40代前半までの若者が中心となっているため、同年代が好ましいと考える。</p>

<p>7. 隊員の支援体制及び地域住民との関わり方</p>	<p>(隊員の支援体制、地域住民との交流等)</p> <p>毎年閑散期(例年2月)に全国の先進地事例から学ぶスキルアップ研修を実施する。隊員には、自治会加入と自治会行事への積極的な参加を促し、地域住民との懇親を図る。そのほか、甕島地域雇用移定住対策協議会メンバーや市役所関連事業への活動(事例:全国アイランダー、移住フェア等)に参加し、住民や関係事業者らとの交流を深めながら、空き家の利活用・UIターンの促進に務める。なお、住宅提供のための支援も可能である。</p>
<p>8. 期待される効果</p>	<p>島内の空き家の窓口として隊員が機能することで、島内のネットワークを活かした確かな情報収集並びに情報発信をすることができるだけでなく、ユーザーや移住希望者らにとっても分かりやすい窓口ができると期待される。また、空き家の適正な維持や保守はもとより、それらが利活用されることで、空き家問題の解消が図られるとともに、集落コミュニティの維持ならびに周辺地域の活性化が図られると考える。また、ハローワーク等の人材紹介事業所等のサービスのない甕島地域においては、島外からのUIターン希望者向けの窓口(特にWEB窓口)を強化することで、移住や定住に繋げることができ、島内各地の事業所における人手不足の解消、や伝統芸能や地域行事等の担い手の解消、地域経済の循環や向上にも寄与することができる。</p>
<p>9. 事業スケジュール及び事業の継続性</p>	<p>〈1年目〉</p> <p>甕島地域雇用移定住対策協議会の公式サイト改修に伴う、情報発信のためのWEBサイト(https://classdo.life)の更新作業の補助業務を実施しながら、事業者インタビューや、島の暮らしを感じられるような記事の更新を実施する。そのほか、お試し移住企画(トライアルステイ)などの企画を補助するほか、空き家の保守管理を主とする家財道具等の清掃や草取り、伐採などにも取り組みながら地域の現状を知る。</p> <p>〈2年目〉</p> <p>1年目の情報発信と空き家の保守活動等を継続しながら、空き家に関連する再生計画の企画立案のサポートや調整に取り組む。また、移住希望者をターゲットとするイベントを責任者として運営したり、先進的な空き家再生の取り組みを学び、実践するためにメンター制度を導入し、研修に参加したりすることで様々な知見を得ることができ、さらには地域外にも頼れるリソースとしての人的ネットワークを構築することができる。</p> <p>〈3年目〉</p> <p>上記事業を継続しながら、実際に空き家の再生に関わる計画策定を自ら実施してみる。対象者へのヒアリングから始まり、契約業務、企画立案、イベントやリノベーションの実践を行い具体的な空き家再生プロジェクトに一貫して取り組むとともに、移住定住促進のための企画立案も加速度的に並行して行う。</p>

	<p>〈任期終了後の団体での事業継続について〉</p> <p>任期終了後も、地域の状況に併せながら空き家再生、管理業務、UITターン希望者への支援を継続する。</p>
10. 隊員の任期満了後の定住・定着の支援体制	<p>任期終了後も安心して暮らし続けられる空き家（住居）の提供を支援する。あくまで本人の意向を尊重しながらではあるものの、再就職先として甞島地域雇用移定住対策協議会の会員への相談や薩摩川内市商工会加入事業者らへの相談も可能とする。また、本人の希望次第ではあるが、当会の連携先でもある「島守株式会社」並びに関連会社である「東シナ海の小さな島ブランド株式会社」への就職支援も実施する。あくまで地域への定着率を上げていくことを前提に、柔軟な対応を行うものとする。</p>
12. その他	<p>（この活動に関わることで隊員が得られる経験・スキル等がありましたら記載してください。）</p> <p>地域デザインに関わるプランナーとして必要な能力として、空き家再生（不動産）全般に関する知識と経験を得ると共に、具体的なリノベーションに関わることで、家のみならず、エリア全体をマネジメントするという考え方を持って計画立案に取り組める。制度ありきの形式的な空き家再生ではなく、現場やオーナーの意向に即した、より実践的な10人10通りの考えを持って集落再生に取り組んでいけるノウハウの獲得が期待できる。さらには、島守株式会社の有する全国の空き家再生に関するネットワークを活かした交流と知見を深めることができる。</p>

※必要に応じて、事業内容の詳細のわかる資料を添付してください。また、適宜、行の高さを変更するなど